# 第３回　新たな文化施設の整備に関する有識者会議

日時：令和７年１月 15 日（水）　10：00～12：00

場所：市役所鳥取市民交流センター２階多目的室１

参加者：

有識者：五島朋子会長、河合真由子委員、木谷清人委員、田邉徹委員、
　　齊藤頼陽委員、湯淺いづみ委員（オンライン）、大倉さゆり委員、川﨑富美委員

鳥取市：企画推進部　塩谷範夫部長
　　文化交流課：中村和範課長、城市索課長補佐、藤田主任
　　政策企画課：上田貴洋課長
　　教育委員会生涯学習・スポーツ課：須﨑ひとみ課長、平田政志課長補佐
　　総務部資産活用推進課：福井一朗課長
　　政策企画課：上田貴洋課長
　　まちなか未来創造課：筒井真二課長

PwC：片山、吉田、鈴木、藤井（オンライン）

【議事要旨】

１．開会

２．議題

（1）第２回有識者会議を踏まえた対応

※資料 1-1、1-2、1-3、1-4 について、事務局より説明

＜質疑応答＞

【会長】 資料 1-4 の事例の資料について、第２回有識者会議での発言は、参考事例をみせてほしいという要望であったが、資料の追加だけではなく、鳥取市の文化施設に活かすべきポイントを参考事例から見出してほしいという趣旨であった。その視点で事務局から補足事項が何かあるか。

【事務局】本資料は、国土交通省の公表資料を参考に、特筆すべきポイントを抜粋した資料となっている。他事例では、かなり早い段階から市民を巻き込んだ活動を行っており、単に市民の話を聞くだけではなく、市民の意見を反映し形にする仕掛けを作っているのが受け取れる。そのような活動は今後も活発になっていくと考えられるため、鳥取市でも同様の動きが出てくる可能性はあるのではないかと考えている。

【会長】そのような活動を助成していく仕組みが今後の文化施設に求められると考える。そのようなことが基本構想に反映されると良い。

（2）事務局からの報告

（3）委員による意見交換

※資料 2-1 について、事務局より説明

＜質疑応答＞

【会長】基本構想（案）に対するパブリックコメントを受けた後に有識者会議は開かれないか。

【事務局】パブリックコメントを受けそれを反映し、（案）をとった基本構想の最終版を委員に共有させていただく流れを想定している。

【委員】パブリックコメントを受けて修正した基本構想は委員に示されるという理解で良いか。

【事務局】ご認識のとおり。パブリックコメントを受けて修正したものはお示しするが、有識者会議としては 5 月の第 5 回が最終となる。

※資料 2-2、2-3 について、事務局より説明

＜質疑応答＞

【会長】もう少し早期にこのようなデータが出るべきであったかと思う。委員から質問はあるか。

【委員】全体のワークショップの参加者のうち 10・20 代の割合はどの程度であったか。

【事務局】概ね過半数が 10・20 代であった。

【委員】男女比はどの程度であったか。

【事務局】やや女性が多かった。

【会長】参加人数自体は多くはないが、限られた周知期間の中で休みの日に時間を割いて

参加してくれた 10・20 代の人たちは、これからを担っていく人たち、まさに新たな施設を利用していく人たちだと考える。

※資料 2-4、2-5 について、事務局より説明

【事務局】新たな文化施設の機能・規模を議論いただくにあたり、基本方針に示されている 6 つの機能を基に、有識者会議やワークショップで出た意見を整理している。また、将来の人口減少や財政規模も考慮しつつ、鳥取らしい持続可能な文化施設にしていきたい。

＜資料 2-4 について意見交換＞

【委員】資料 2-4 の基本理念について、「ひとりひとりが文化芸術に触れ・・・」とあるが、ワークショップやアンケート等を踏まえると「だれもが文化芸術に触れ・・・」等になるべきかと考えた。「ひとりひとりが」とした意図は何か。

【事務局】ワークショップやアンケートを通じて、市民が日頃から色々考えているというのを感じた。市民を集団としてみるのではなく、ひとりひとりをしっかりと見て、その思いや意欲を尊重し肯定することが重要であり、そのような考え方がなければ将来に繋がらないと考えたことにより、一人ひとりという表現をもちいている。ただ、必ずしも本日お示しした表現にしたいということではないが、そういった思いが伝わる基本理念にしたいと考えている。

【委員】ひとりひとりの願いやニーズが実現できるようにという意図だということが理解できた。

【委員】資料に市の気持ちが出てきたと感じている。アンケートやワークショップの結果を踏まえると、既に活動しているものについては十分な計画だと思った。ただ、鳥取市は地方都市であり情報が遅れてくるという側面がある。新たな施設は、最先端のものを見ることができる、体験できる等により、新たなものを紹介していき、「自分にもできるのではないか」と文化芸術と出会うきっかけになるべきと考えている。そういった意味で、資料 2-5 に「その他想定される機能」として記載されている「育成・発信機能」が大事だと思っている。キュレーターを配置したりイベントを計画・実施できる拠点にしていくべきと考えている。やはり人材や仕組みづくりの面が重要。

【委員】川﨑委員と同様に考える。これまで関わっていなかった人に向けて裾野を広げるというコンセプトは重要であり、力を入れて取り組んでいくべきと考える。ただ、このコンセプトは与

えられているものという印象が強い。与えられたコンセプトを利用者自ら見直し、本当によかったのか考え、刷新していく仕組みがあるべきだと思う。外からの力が入らない限り更新されないと、誰かがやらないといけなくなる。自分たちが必要だと思えば利用者自ら「それでは会議をしましょう」という動きが出てくるような、そういうコンセプトがあっても良いと思う。自分たちで考えるということが盛り込まれると良い。

【会長】市民の主体性が発揮されるというようなキーワードが基本理念に入ると良いと思う。

【会長】基本理念について、英語の表記や「３つの羽」というのは少し伝わりにくいと思うため、表現はあまりこだわらず、本質的なところで基本理念の言葉をつくっていく方が良いように思う。また、個人が文化芸術に触れて仲間ができて交流するという流れで「はじめる」、「はぐくむ」と表現していると思うが、「はばたく」のイメージが難しいように思う。現在の案では、個人の体験とその交流で終わっている印象のため、このような施設・場が生まれることによって鳥取のまちが活気づく、魅力的になって人がやってくる、それによってさらに鳥取が元気になっていくというような、地域との関係も盛り込むべきではないか。

【委員】マネジメントが １ つ大事な観点となる。アートマネジメントやキュレーション等の人材はすぐには育たない。仮に美術館を作るとなっても学芸員の調査研究には何年もかかる。人材を育てていくことは必要になるため、施設ができる方針があるのであれば、ハードに先行して人材を育てていくことが必要。文化施設で指定管理をしているが、美術系の学芸員はいない状況。美術系の学芸員を財団で育てる等、ハードだけではなくソフトで養成を同時並行していくことが肝要。例えば、先行して「やまびこ館」に美術系学芸員を雇用育成し、「文化センター」にはアートマネージャーを養成していく等、今から取り組まなければ間に合わないと考える。１０年、１５年はすぐやってくる。

【会長】人材育成や組織の作り方は、これまでの議論にも出ていた。タイムスケジュールとあわせて人材や組織作りにも触れていく必要がある。

【委員】「はじめる」の観点が重要と思う。ワークショップでも部活動の地域移行の話が出ていたようだが、地域移行をどうしていくかというよりも、やりたいことをどこでするのかが問題になっている。既に小規模な学校では部活動の種類が限られており、大会にはクラブチーム等で参加する場合もあると聞いている。活動を立ち上げるという意味でも「はじめる」というのは

大事にしていきたい。

【委員】施設ができたときに使われていない状態がないという形にした方が良いと思う。例えばホールであればコンサートがない期間の方が長いというのは良くない。資金面の課題もあるかもしれないが、週間スケジュールをつくって、例えば月曜はバイオリン、火曜は音楽の体験、水曜日は演劇の体験・・・等、施設が使われている状態が続くと良い。

【会長】市民が主体的に関わっていくという部分と重なるかもしれないが、常に使われている状態を市民や専門家が一緒に作り出していくことが必要ということになる。

【委員】使われていない状態が多いのは望ましくないので常に動いている状態を目指したい。基本理念については、「はじめる」が重要と考える。アンケートの結果を見ると、日頃行っている文化活動は「特になし」と回答している方が多く、理由として「時間が無い」「関心がない」「どうはじめていいかわからない」という回答が多かったのに驚いている。そのような人たちを取り込めるような施設をどのようにつくるか、どういう人材が必要なのかを皆さんの意見を参考に考えてみたい。

＜資料 2-5 の新たな文化施設で想定する基本機能について意見交換＞

【会長】資料 2-5 で「基本方針に示されている機能」とあるのは、令和 5 年度に公表された基本方針の中で「新たな施設に導入する機能のイメージ」として示された機能であることを確認する。川﨑委員からは「育成・発信機能」が特に重要だという点、木谷委員からは先行して人材をつくっていく仕掛けが必要だという点でご意見があったが、他にいかがか。

【委員】文化施設に入れるかどうかの優先度は高くないかもしれないが、交流という面で滞在制作できるレジデンス機能がまちには必要だと思う。

【会長】既にある施設との棲み分けも考える必要があるが、基本構想の中にはまちなかの施設との連携を組み込むこともあるかと思う。

【委員】ホール系施設を管理する立場で感じたことをお話しする。ホール機能は小規模（300～600 席）というのが示されている。第 2 回有識者会議の中で、プロモーターヒアリングの結果が示されたが鳥取は立地条件が厳しいという意見もあり、このような小規模のホールにするという方針は致し方ない条件と考える。また、アンケートやワークショップの結

果からは、施設管理をする中で利用者から頂けていない意見もあり参考になることもあった。他方、これらの意見・基本理念・素案等をすべて１つの施設で実現できるのかということが一番感じているところである。今後人口減少や歳入減少もある中で維持費を捻出することを考えたときに、これらの機能すべてを実現する施設は、壮大なものになってしまうという印象を受けた。

【会長】一部の機能はスペースを兼ねるということも示されているが、資料 2-5 シナリオの中でも議論したい。

【委員】ホールは規模が示されたが、展示スペースには規模が示されていない。「市美術展は規模が大きいため、従来通り、県立博物館の使用を想定」という記載を見ると、新たな施設ではそこまで大きいものはつくらないという考えと受け止めた。経験上、美術の展覧会・展示には 500 ㎡規模が必要で、やまびこ館の 280 ㎡では美術展を開くのが難しいのが現状。500-600 ㎡の空間を整備して、可動間仕切り等で小分けにして使えるようにするようなイメージかと考えている。

【事務局】木谷委員のご指摘のとおり、市美術展は県立博物館で開催を想定しており、新たな施設には 1000 ㎡規模までは必要ないのではないかという方向性である。また、「見せる収蔵」もあるので、学芸員の人材育成と並行して、どういった美術品を収蔵をするか、どういった展示をするかを検討し、総合的に検討したい。

【委員】「はじめる」が大事な点だという議論があるが、アートや芸術活動は概念的なものだと考えている。言葉付けができてしまうと、活動に対して「ちゃんとしなくてはいけないのではないか」とむしろハードルがあがってしまう。ヨーロッパではアマチュアレベルでも生涯スポーツ・生涯芸術を楽しんでいるが、日本では「ちゃんとやらなくてはいけない」という考えになってしまい気軽に楽しむことができない環境にある。「落書きでもいいからやってみたっていいじゃないか」と意識改革をし、どこでも何でもやってみたらいいという考えを醸成することが必要。立派な箱ができるよりも、今ある建物でもできる活動があることを伝えていくことが大事だと思っている。エバンジェリストのような人が、「市内施設でこういうことができます」と伝える機能があれば、全ての機能が一つの施設に集約せずに分散していても良いと思っている。

【委員】コンセプトはよくまとまっており、基本機能に大きな反対はないが、こういう施設が１箇

所にできると受け止められてしまう。資料 2-5 のシナリオが重要になると思う。

【会長】それでは、資料 2-5 シナリオについて事務局から説明いただけるか。

※資料 2-5 シナリオ①から③について事務局から説明

＜資料 2-5 シナリオ①から③について意見交換＞

【委員】各シナリオは市民会館の改修が前提となっているが、改修せずに解体する選択肢はないのか。ご説明をお願いしたい。

【事務局】新たな施設ができるまで十年程度かかると想定され、それまでの期間において、活動する場所が必要と考えている。そのため、市民会館は改修を前提にしている。

【委員】シナリオ②でも文化ホール機能の停止期間が生じる。停止期間がいつになるかという問題か。また、基本方針で示されている公共施設総量の削減という方針からも、疑念が残るがいかがか。

【事務局】シナリオ②では、文化ホールの停止期間が生じるが、その期間も市民会館は利用できるようにして不便を軽減したいという意図がある。新たな拠点施設ができたのちに、施設を解体するという方針で考えている。

【会長】すぐに 4 施設の再編をすることはできないため、部分的に市民会館を延命しながら再編を進めていく、というのが市民会館改修の意図と理解した。市民会館は昨年の時点で空調の不具合、観客席側のアクセスの悪さ、トイレの不便さ等があり利用者の不便さが非常に大きい点が課題だと思うが、改修してこれから何十年も利用するという話ではなく、一種の緊急的な対応だと理解している。機能として必要な要素が多く、1 つの施設に入らないとなったときに、既存施設をどう活用しながら新たな整備をしていくかという考え方でパターンとしてシナリオが作成されたものと理解した。

【委員】新たな文化施設と駅前の再開発との関わりが分からなかったが、文化施設も駅前の再開発と一緒に考えていくべきだと思っている。駅前に商業施設だけの施設ができてしまうのは辛いと思っており、文化やスポーツを統括した楽しい駅前になってほしいと思っている。にぎわいを生む、新しいものと出会う、はじめる、といったような交流の場や、練習室や小規模な展示室等の細々としたものを駅周辺施設に入れ、大きなイベントを開催する施設

はわざわざ行く場所なので駅から離れたところにする、というような分類が必要かと思った。拠点をつくることとあわせて、人材を育てながら、まちづくりについて考えていく組織を早めにつくっていくことが重要。新設の建物ではなく、商店街の一室でも良いので、今から始めていくことができると良いかと思っている。

【委員】市民会館の延命については、市民にしっかりと説明をお願いしたい。いずれの場合も拠点整備には 15 年～20 年程度かかる話であるので、今までの議論で出た人材育成という観点においても、駅前にクリエイティブ空間を創設することは良い機会に思う。駅前に大きなホールを入れるというのは規模的にも難しいのではないかと考えられるため、段階を踏んで長期的に考えていくのが良いのではないかと思った。

【会長】長期的にとはいえ、人口減少もあることを考えると 20 年も待っていられないとも思う。現在活動している人の数が少なくなってしまう懸念もあるため、スピード感は必要。

【委員】市民会館の改修は仕方ないが、この改修を新たな投資と考えるのは大きな間違いだと思う。市民会館は約 60 年使っている施設であり、本来は改修されているものであった。いわば隠れた借金があった状態であるため、今回の改修は新たな投資ということではなく、今まで対応できていなかった借金を返すような改修になると思う。そのような考え方に立てば、市民にも納得いただけるのではないか。

【会長】駅再整備の中では、駅周辺のにぎわいづくりに貢献できるものや、敷居の低いものを入れていくことが方針として整理されていると思う。ホールや展示スペースは、何か行われているときにしか人が来ない性質のもの。また、複合施設に入ると展示やイベントのための搬入が難しくなるため、そういったものは駅前ではない別の拠点にしても良いかもしれない。シナリオ②③では、駅再整備における文化施設の一部機能整備と中心拠点における新たな文化拠点の整備という方向性であるため、財政的な裏付けが必要になってくると思う。

【委員】どの場所に何があったらよいかはわからないが、駅周辺であれば県外からも鳥取に来たいと思える施設、県外から来た人が楽しめる施設であると良いと思った。

【委員】にぎわいやつながりという観点を考えると、駅前にはクリエイティブ空間や見えるという機能が必要と感じた。

【委員】駅周辺にホール機能をもたせるか、あるいはフリーに使える会議室等にするかという観

点では、後者が良いと思う。先ほどの発言のとおり、今までの考え方を変え、人材を育てることが重要である。そのような人材が常駐していることが重要。

【委員】シナリオ②で示されている、駅周辺にクリエイティブ活動拠点をおくということが想像しやすい。資料 1-3 に示されている参考事例の中では、アオーレ長岡がよいと思っている。アオーレ長岡は多目的室 3 つ、会議室 3 つ、市民交流ホール 4 つ、ホワイエ、シアター等がある施設だが、市民交流ホールには間仕切りがあり、区切って使うことも大きく使うこともできるというのが好印象であった。アンケート結果のうち文化活動の状況という設問をみても、吹奏楽・楽器演奏、音楽鑑賞、美術、ダンス・ヨガ等様々な活動をしたい人がいる中で、利用者によって空間をかえることができるというつくりが鳥取市には良いのではないかと思った。

【会長】中心拠点の新設の立地については、検討余地を残してほしい。文化ホールの場所ではなく市民会館の場所で建て替えた方がメリットは大きいのではないかと考えている。他に意見がなれば進行を事務局にお返しする。

（4）今後の予定

【事務局】第 4 回有識者会議は 3 月を予定している。日程は別途調整させていただきたい。

３．閉会

以上